

インターバンクの声（2017 年 12 月 11 日）

週末のニューヨーク市場序盤に発表された 11 月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を上回ったものの、賃金の伸びが予想を下回り、10 月の平均時給も下方修正されたため、円相場が一時的に 30 銭ほど円買い・ドル売りが進んだ。それでも 12 日～13 日に開かれる FOMC での利上げ見通しに変化はなく、下げていたダウ平均や原油価格が反発し始めたこともあり、2 時間後には雇用統計発表前の水準に戻った。ただ、金曜日に欧米勢がこぞって取引に臨んだのは英ポンドだった。英国の欧州連合 (EU) 離脱を巡っての条件で双方が大筋で合意に至り、英国が求める通商協議に移行する目途がつき、一時はロンドン市場の高値から 150 ポイント超も下落したのだ。離脱交渉が合意となればポンド上昇のはずだが、この日は短時間で買われた後は利食いが優勢となった上に、今後の EU 離脱プロセスの中での出口戦略に不透明な部分が残っているのが嫌気されたようだ。今週はクリスマスのため市場が薄くなる来週に備えて、調整色の強い一週間となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。